



祐介の目

日本ワインの認定

「日本ワイン」とは、原料が日本産ぶどう100%であり、日本国内で醸造されたワインにしか冠することのできないブランドである。じつは従来の「国産ワイン」には、海外から輸入したぶどうや濃縮果汁を使用し国内で醸造されたワインも多く含まれていた。そこをはっきり区別しようという国税庁が「日本ワイン」という表示を策定した。同庁の調査では、国産ワインのうち日本ワインに該当するのは全体のわずか18%だそうだ。

私の会社(株)福山健康舎では今年から「備後ワイン・リキュール特区」の適用を受けて2千ℓのワインを醸造したが、本当は長い1年だった。新年早々から雪が降る中の剪定作業、暗渠排水パイプ埋設による土壌改良、春に2千本のぶどうが一斉に萌芽すると目が回る忙しさとなり、摘芯、誘引、草刈りなどの作業に追われた。夏の炎天

No.75

大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

毎月1日号に掲載

下の袋かけ、サルなどの有害鳥獣対策、病害虫対策、終わる事の無い草刈り、いよいよ実りが近づけば台風を心配しなければならぬ。私も毎日夜明けとともに圃場に出て作業をして日中は議会という生活、地方創生に懸けたその結晶が9月に収穫された。さらに井原市や笠岡市も含む連携中枢都市圏で認定された県境を越える特区の特性を生かし、井原の生産者からもぶどうを仕入れた。6次産業の各分野の課題を身をもって感じている。

実は今年、あらゆる作業が手動の日本一小さなワイナリーを拡大し、本格的な「山野峡大田ワイナリー」を整備した。空気で搾汁するプレス機や冷却ジャケット付きの発酵タンクを導入し、より高品質なワイン作りも可能となった。従来からの「ふくやまワイン特区」では販売ができなかったが、これからは晴れて販売も可能となる。12月9日(土)には山野峡大田ワイナリーのお披露目を兼ねて新酒の販売を行う予定だ。市内から約40分、左手に山野小・中学校が見えたらその100m先の右のピンクの建物ワイナリーであり、福山産の「日本ワイン」をぜひご賞味いただきたい。